

聴覚障害児教育の専門性に関わる「暗黙知」を 次世代につなげるためのナレッジマネジメント研究

－ 乳幼児期における個別の言語指導の実践より －

学籍番号 249511

氏 名 山本 明子

主指導教員 井坂 行男

副指導教員 湯浅 哲也

1. 背景

近年、特別支援学校（聴覚障害）における乳幼児教育相談・幼稚部では、ベテラン教員の減少や経験の浅い教員の増加を背景に、専門性継承が大きな課題となっている。乳幼児期の個別指導では、子どもの反応に即応した判断や関わりが求められるが、そうした実践は教員の経験に基づく暗黙知として内在しやすく、言語化や共有が難しい。こうした暗黙知を含む専門性の継承を捉える枠組みとして、本研究ではナレッジ・マネジメントの視点を取り入れ、教育現場における知識共有の在り方を検討する。

2. 目的

本研究は、特別支援学校（聴覚障害）の乳幼児教育相談・幼稚部の個別指導場面における教員の「暗黙知」に着目し、その具体的内容と特徴を明らかにすることを目的とする。さらに、アンケート調査、インタビュー調査および教員の個別指導実践の分析を通して得られた結果をもとに、暗黙知を含む専門性を学校組織として共有・継承していくためのナレッジ・マネジメントの在り方について検討する。

3. 方法

3.1 調査対象および調査方法

近畿圏内の特別支援学校（聴覚障害）に勤務する乳幼児教育相談・幼稚部担当教員を対象に、アンケート調査を実施した。アンケートでは教員の経験年数や専門性の認識、暗黙知に対する意識などについて尋ねた。また、早期教育部および幼稚部に所属する教員4名を対象に、半構造化インタビュー調査を実施した。インタビューでは個別指導における困り感を中心に聴取した。

3.2 個別指導実践の分析

対象教員4名に個別指導場面の録画を依頼し、録画映像を用いた事後検討会を継続的に実施した。映像視聴と省察を通して教員の判断や関わりの意図を言語化し、暗黙知の抽出を試みた。

3.3 個別指導事例集の作成

事後検討会で得られた知見を基に、個別指導事例集を作成し、暗黙知を含む実践知を共有す

るためのツールとしての有効性について検討した。「活動の流れ」だけではなく「活動のねらい」「配慮事項・留意点」「観察の視点」「保護者に伝えたいこと」の5項目で構成した。

4. 結果

4.1 アンケート・インタビュー調査の結果

アンケート調査の結果、乳幼児教育相談・幼稚部担当教員の約半数が経験年数 1～5 年であり、教員構成に偏りが見られた。また、多くの教員が個別指導の中に暗黙知の存在を感じている一方で、その内容を教員間で十分に共有したり話し合ったりする機会が限られている実態が明らかとなった。他教員の指導を見る機会は一定程度あるものの、指導の意図や判断までを「よく知っている」と回答した教員は少なく、観察が暗黙知の共有に必ずしも結びついていないことが示された。インタビューからは、経験の浅い教員ほど専門性の掘り所を見出しにくく、不安を抱えている様子が確認された。

4.2 個別指導実践の分析結果

個別指導には、子どもの非言語的な反応を読み取る視点、教材提示のタイミング、話すスピードや間の取り方など、言語化されにくい暗黙知が多く含まれていた。録画映像を用いた事後検討会を通して、これまで無意識に行われていた判断や関わりが徐々に言語化され、指導の改善や教員の自信につながる変化が見られた。

4.3 個別指導事例集作成の成果

個別指導事例集は、活動のねらいや観察の視点を共有する手がかりとなり、教員間で指導の意図や実践の視点を共有するツールとして一定の有効性が確認された。

5. 考察

本研究の結果から、乳幼児教育相談・幼稚部における課題は、個々の教員の専門性の不足そのものよりも、教員が自身の実践を振り返り、指導における判断や関わりの意図について教員同士で共有するための場や仕組みが十分に機能していないことが、暗黙知共有の停滞につながっている可能性が示された。

事後検討会や個別指導事例集は、暗黙知に気づき、言語化するためのきっかけとして一定の役割を果たしたが、それらを単発の取り組みに終わらず、日々の実践と結び付けながら活用していくためには、「ファシリテーター」という役割を担う身近な教員の存在が重要であったといえる。特に、個別指導という閉じやすい実践形態においては、日常的な対話や省察の機会を組織的に位置付けることで初めて、暗黙知が教員間で循環し、専門性の向上へと結び付けていくと考えられる。

6. まとめ

本研究は、乳幼児期の聴覚障害児教育における個別指導の専門性を暗黙知の視点から捉え直し、組織的な共有・継承の可能性を示した。暗黙知の共有は個人の努力に委ねるものではなく、対話の場や役割を意図的に設計することで促進される。本研究の知見は、乳幼児教育相談・幼稚部において、日々の個別指導の中で培われてきた実践を教員間で共有し、次の世代へつないでいくための視点を示すものである。